

産学官連携イベントレポート

第18回地域を活かす科学技術政策研修会

「地域のイノベーションを加速するための強化策」ー産学官連携による新産業の萌芽ー
(H22.11/24～26)

(財)全日本地域研究会交流協会(JAREC)は、地域自治体における産業振興、地域の科学・技術を振興する担当者等を対象に、新しい取組み情報と政策立案・プロジェクトリーディング手法の共有を指向して、「地域を活かす科学技術政策研修会」を毎年開催しています。

第18回目にあたる今年度は広島県と(独)科学技術振興機構(JST)の共催、(財)新技術振興渡辺記念会の協賛により広島市・ホテルグランヴィア広島で開催され、全国から100名を超える受講者が集い、3日間にわたって研修が行われました。

1日目は、主催者挨拶(JAREC沖村理事)及び共催者挨拶(広島県城納副知事、JST小原理事)に始まり、(株)サタケ取締役副社長福森武氏による基調講演と各省等(文部科学省、経済産業省、農林水産省、(独)中小企業基盤整備機構、(独)科学技術振興機構)の地域関連振興施策説明が行われました。

2日目は、グループ研修のガイダンス(JAREC中崎常務理事、(財)新技術振興渡辺記念会柳沢技術参事)に始まり、地域の科学技術振興について広島県、福岡県及び福井県の事例が紹介された後、3つのグループに分かれて3県の事例に基づいたロードマッピング作成演習が行われ、最後に演習の成果発表が行われました。

3日目は、広島県内の技術開発型企業であるマツダ株式会社(安芸郡府中町)と株式会社サタケ(東広島市)を訪ね、事業説明、社内見学、意見交換が行われました。

<11月24日(水)第1日目>

(株)サタケの福森副社長からは、「知識情報社会における産学官連携の役割と今後の課題」と題し、創造的なアイデアと変革の重要性、創業時から一貫して行われる研究・開発、産学官連携の事例として広島大学・広島県西部工業技術センター・サタケの共同研究による光選別機の高速度画像処理技術の紹介、会社が求める人材や産学連携の今後の課題等々について、柔和で説得力のある基調講演が行われました。

引き続き、各省等の地域関連振興施策説明と質疑が行われました。

- ①文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術戦略官(地域科学技術担当) 増子(ますこ)宏氏「地域産学官連携の戦略的な展開に向けて」
- ②経済産業省 経済産業政策局 地域経済産業グループ 地域技術課 課長 渋谷(しぶや)浩氏「経済産業省地域経済産業グループ関連施策について」
- ③農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課 産学連携室 課長補佐 上崎(かんざき)博資氏「平成23年度競争的資金制度について」
- ④独立行政法人 中小企業基盤整備機構 事業支援部 創業・ベンチャー支援課 課長代理 齋藤友秀氏「地域における中小企業のイノベーションの促進を目指して」
- ⑤独立行政法人 科学技術振興機構 産学官のバージョン創出拠点推進部長 齊藤仁志氏『地域産学官共同研究拠点整備事業』について」

終了後行われた交流・懇親会では盛んに情報交換がなされ、1日目は賑やかに終了しました。

<11月25日(木)第2日目>

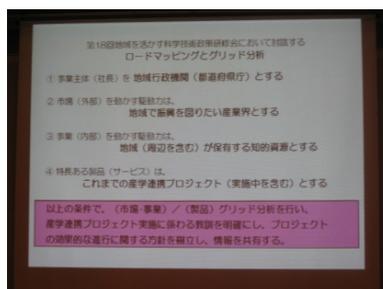
(財)新技術振興渡辺記念会の柳沢技術参事による協賛挨拶、(財)全日本地域研究交流会の中崎常務理事による研修ガイダンスが行われた後、「地域の科学技術振興“温故知新:第I期～III期、今後の期待”」と題して、広島県、福岡県、及び福井県の事例が紹介されました。

- ①広島県 商工労働局 産業振興部 産業技術課 課長 石井裕工 氏より「これまでの広島県のプロジェクト開発と新たな知の拠点づくりの進め方」と題し、広島県産業科学技術研究所のプロジェクト、ものづくり産業高度化推進計画、カーエレクトロニクス推進センター、ひろしま医工連携・先進医療イノベーション拠点等の紹介・説明が行われました。
- ②福岡県 商工部 新産業プロジェクト室 室長 井本(いのもと)誠二 氏より「福岡県における先端成長産業拠点の構築について～シリコンシーベルト福岡プロジェクト(先端半導体開発拠点構築構)を事例として～」と題し、国際競争力のある新産業創出のため先端成長産業の育成・拠点化を図った地域クラスター政策の一つである同プロジェクトの進め方等について、紹介・説明が行われました。
- ③福井県工業技術センター 企画支援室 室長 勝木一雄 氏より「地場産業に密着した地域振興、拠点形成と公設試」と題し、福井の固有技術と先端技術である高度なレーザ技術の融合を図った地域結集型共同研究事業に始まる施策展開と今後の発展、そして地域の科学技術振興における公設試の役割について、紹介・説明が行われました。

各県の紹介の後、JARECの評議員を務める九州大学名誉教授の齋藤省吾氏より英国ケンブリッジ大学で作られた技術開発プロジェクト管理手法であるロードマッピングについてマップの作成と活用方策の説明が行われました。その後、上記3県の事例ごとに1名のモデレータを中心とした3グループが別室に分かれ、各グループで討議に入りました。ロードマッピングは連続進行型の4つのワークショップで構成されます。今回はその一つにあたる「グリッド分析①」(製品と市場の分析格子から「製品特長順位」を計算する)で演習が行われました。その地域の特長ある製品を抽出して数値評価し(X軸)、事業・市場駆動力の優先度を数値評価し(Y軸)、それらを出発点として各製品の最終スコア値を算出する、というものです。2 時間半にわたるグループ討論終了後、各グループ代表者より、ロードマッピングの紹介と得られた教訓の発表が行われ、最後に中崎常務理事による研修会総括と閉会挨拶により2 日目は終了しました。



九州大学 齋藤名誉教授



分析結果の条件



広島県のグリッド分析結果

<11月26日(金)第3日目>

3 日目はバス移動で施設見学です。参加者は約 30 名、午前中はマツダ株式会社(安芸郡府中町)、午後には株式会社サタケ(東広島市)を訪問しました。



マツダ(株)にて 会社の歩み



(株)サタケにて 光選別機の実演

行政枠を超えた他地域から参加された皆様は、今回の交流による新たな人脈や協力関係そして多様な情報源を得られ、今後の業務推進に活用されることと思われまます。非常に有意義な3日間の研修会でした。